

「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから 20 年②

今回は私たちの秘密結社? 「アンチャンクラブ」について、なぜ中込メ、中込ミは暗紫色のシャンプーをタイで買って帰るのか、なぜ時々紫色の花の写真を熱心に撮っているのか、なぜ「JJ」マーケットで、紫色の種を買っているのか、なぜ「サイチョウ」と時々タイ語の発音練習をしているのか等の謎が解ける。

ソイの奥から 2012

若林 卓司



▲アンチャンの花 サラダ

タイの花で私をひきつけるのは熱い光をいっばいに受けた溢れるばかりの黄色いクーンの花だが、その可憐さにふと佇むのはアンチャンの花である。私が昔、プラナコーン教育大学で日本語を教えた時、クラスにアンチャンという名前の女学生がいた。かわいかったのと、名前の響きが日本語的なので私はすぐに覚えた。しかし、それが花の名前だとは知らなかった。タイ人の名前には花からとったものがけっこうある。ラムドゥアン、マリ、ブンタリカー、ベンチャマース、リラワディー、サヌー等、女の人の名前である。



▲バンコク ラームカムヘン大学 若林撮影

いつだったか、楕円状の青い花が目についた。花

びらは一つに融合している。中心部は薄い黄色で、それを青が取り巻いているのだが、内側から外へと青が濃くなっているのだ。そこに光が当たると、青はいっそう鮮やかになった。私はかたわらのタイ人にその名を聞いた。それがアンチャンだった。アンチャンはマメ科のツル状植物で、壁などにもツタのように張り付くことができる。名前と実物が結びつくところの花は家々の花壇にも、灌木の根元にも、生け垣やブロック塀にもよく生育していることに気がついた。花の青や中心部の薄い黄色は場所ごとに違っていた。また、素朴な一重の花もあれば二重三重のようになっているものもあった。白色の花もあった。私はうれしくなった。

何回目かのT Jクラブの例会で、アンチャンクラブが結成された。忘れもしないナコンサワンでの結成だった。それでナコンサワンの架け橋ともいう。その愛らしさゆえの結成だったと思うが、あまり深い意味はなかったかもしれない。私が会長に選ばれて、アンチャンに関するあらゆる情報を集めることを託された。会員になるためにはアンチャンに関する飽くなき興味はもとより、「サイチョウ」、あの嘴の大きい鳥のことなのだが、そのタイ語の発音を流暢に発することが求められた。アンチャンとサイチョウ、何の関係があるのかはわからない。会員は中込と中込、ごめさんとごみさんである。結成をしてもすぐに何かをするわけではないから、会員資格を左右する発音が厳しく追及されることとなる。今日の会員は明日の準会員なのである。アンチャンクラブの会長になることは非常に名誉なことなので、二人の焦燥は計り知れないものがあっただろう。しかし、かえるを踏み潰したような声では難しいのである。けだもの声では会員の威厳と品格が保てないのである。飽くなき会員への道はその後何年にもわたって現在に及んでいる。



▲ホテルで飲んだアンチャンジュース ひたすら甘い

アンチャンはタイでは昔から艶のある黒髪の養毛剤として利用されていた。それで、現在ではアンチャンシャンプーが発売されている。また石鹸にも用いられており、アンチャンシャンプーとアンチャン石鹸の併用は会員としての自覚をタイの最高峰インタノン山のように高めるものである。一方、アンチャンの花を水につけると青い色素が容易に溶け出す。それで、タイ菓子の色付けによく用いられる。カノム・チャンと呼ばれている長方形の薄いこんにやくが何枚も重ねてあるようなお菓子の薄い青がそうである。また、飲料水に使われることもある。これはすっぱいマナーオと混ぜ合わせて最近二つの会社から新発売になり、是非飲まなければと、飲んでみたが、まあまああの代物だった。昔、クレッタ島へ行った時、アンチャンの花がてんぷらになっていた。是非食べなければと、食べてみたが、ナスビの方がうまいと思った。しかし、このアンチャン、ナン・ファーというキノコとたまねぎと共に掻き揚げにし、うどんと一緒に食べるとおいしいのだ。家のベランダのアンチャンの花がいくつかまとめて咲いたら、我が家のテーブルには掻き揚げうどんが現れるのである。



▲クレッタ島で売っていたアンチャンの乾燥した花

ここで述べているアンチャンは鑑賞用植物であるが、タイには野生種がある。私が見たのはクラビー、チュンポーン、ナコンシタマラートとすべて南部である。アンチャンの学名はあまり感心しない。それでもこの野生種を見れば、命名者の軽率さは否めがないが、わかる気もする。けれど、私たちのアンチャンはそんなことをおくびにも思わせない、可憐さ、さわやかさに満ちている。その濃い青に見つめられると、心の底が洗われるような気がする。この花を愛でることで、人生を意味のあるものとして美しく捉えなおすことができるのだ。



▲ J J マーケットで買った種子 ▲ トランにて (若林撮影)



▲アンチャンのシャンプーと乾燥した花 (若林さんとチナツタッタさんにいただいたもの)

昨年12月、若林夫妻が、来日 (!?)。いつもは関西だが、はじめて東京に来てくれた。うれしい。西日暮里で歓迎会。10人ちかく集まった。若林夫妻は飲めないのに、居酒屋が会場。INCHらしい。翌日は小菅村来訪。博物館の図書館の蔵書に感動してくれた。(中込 卓男)